

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.134 - 2020年2月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

## 総

長の言葉はまだ私たちの耳に残っています - 最近の宣教の呼びかけです (2019年12月8日 <http://www.infoans.org>)。この2月に始まる総会、そして四旬節は、よりよく耳を傾ける素晴らしい機会となります。Ad gentesすべての人へのこの宣教の呼びかけにも。

アンヘル神父は呼びかけで、このように語りました。「これは私たちの会のアイデンティティです。ドン・ボスコはその心に大きな宣教の情熱を抱いていました。」そのため、「私たちの優れた宣教師たちは、福音、神の言葉を宣べ伝え、青少年を教育する働きに加わるためどこへでも赴きました。」

実に「今日」も、「私たちは至るところで、来てほしいと招かれています。」「サレジオのミッションは、世界中で多くの宣教師を待っています。主の名によって、子どもたちの善益のために善をなしたいと願う多くの宣教師を。」私たちはそれを知っています、そして師は再び思い起こさせます。「収穫は多いが働き手は少ない」と。ラテン・アメリカの先住少数民族の人々は私たちを待っています；難民、避難民も私たちを待っています、特にアフリカで；イスラム教の国々の若者、また正教の国々の若者も；人を死に追いやる世俗主義の若い囚われ人たち；プロジェクト・ヨーロッパによって助けられる人々……忘れないでください、ドン・ボスコの後継者は次のように呼びかけを締めくくっています。「耳を傾けるようにと招きます。皆さんのために祈っています。

皆さんの手紙を待っています。」私も待っています！

宣教顧問 ギジェルモ・バサニエス神父



答え：それはサレジオ会宣教師、宣教する共同体、献身する信徒宣教師に違いありません。私たちは第28回総会を開始しようとしています。これまでの総会も毎回そうであったように、今回の総会も、教会における私たちサレジオの使命・ミッションのための刺激、推進力となるでしょう。ここで、サレジオの宣教意識を再活性化させるよう促す、作業用文書のいくつかの要素に光を当てたいと思います。

① 序文は、最初の宣教派遣の150周年 (1875 - 2025) を思い起こさせ、全世界を擁護することのできたドン・ボスコの使徒的勇気を再発見するよう、私たちを促します。

② 14では、養成と宣教の使命の密接な結びつきが強調されています。私たちは宣教のために、また宣教する中で養成されます。宣教の質を高める緊急な必要があり、そのため、養成の質により配慮しなければなりません。最も貧しく、見捨てられ、危険にさらされた子ども・若者のため、彼らと共に生きることが、私たちのカリスマの優先事項です。すべての人への宣教 missio ad gentes は私たちのカリスマの隅の親石であり、多くの管区がそのための養成を求めていることによって光が当てられています。「宣教に向けて」養成されるには、「宣教する中で」養成されることが必要です。

③ 19では、宣教と養成の結びつきについて、そしてサレジオの視点からの識別について示されています。教皇フランシスコは、教会のあらゆるレベルの真の宣教的回心を訴えています。養成も、この、必要で後戻りできない歩みの影響を受けています。現実を真の“土台”として見とめることにより、養成は、霊に関わる<sup>ふるい</sup>ことの師だけでなく、司牧生活の師もいるところで、宣教・ミッションの中で行われることが明らかになります。歩みを、本物のサレジオの召命の篩にかけるのを助ける司牧生活の師です。私たちの生活全体に、したがって養成にも、具体的な特質を与えるのは、宣教・ミッション、特に最も疎外された、最も小さな人々のための宣教・ミッションです。そのためには、「統合の恵み」と「使徒的<sup>ふるい</sup>内面生活」が求められます。この理由から、私たちは、神の呼びかけを正しく特定し、使徒的熱意をもって応えることができるような「司牧的識別」のリズムに入らなければなりません。

④ 27は取り上げ深めるべき時のしるしとして「宣教の使命のための共同の歩み synodality (兄弟的な協働と識別の歩み)」について述べています。現代の教会論は、教会のさまざまな召命が洗礼という共通の根源を持ち、どの召命も神の民の成長に寄与しようとするものであることを示しています：「教会の中の役目がどんなものであっても、また信仰の素養に差があっても、洗礼を受けた一人ひとりが福音宣教師なのです。だから資格のある者だけがそれを進め、残りの信者はこれを受け取るだけだと考える福音宣教の図式は適当ではありません。」(『福音の喜び』120)

⑤ 30は、私たちの支部・事業所に集う若者にサレジオ宣教ボランティアを体験する機会を提供することについて述べています。

第28回総会 今までの歩みのため、さらなる歩みへ

## ほかの人には与えられなかった仕事を 神はくださった

# 聖

ジョン＝ヘンリー・ニューマンは言っています。「神は、ご自分に仕えるよう、私を造られた。ほかの人には与えられなかった仕事を私にくださった。」「私には使命がある。この世にいる間、私が神を決して理解できなくとも、次の世では理解するだろう。私は人間の鎖の一つの輪、人と人をつなぐ一つの輪だ。」2017年、私は総長によって、宣教師として

イギリス管区に派遣されました。時をさかのぼると、私が初めて出会ったサレジオ会員はト

マス・ミラドル神父で、友だちのように、お父さんのように、朗らかな笑顔で接してくれました。トマス神父は、サレジオ会員がいかにあるべきかをいつも思い出させてくれました。告解に行くたびに宣教地のことを話し、「マントラ(祈りで唱える聖なる言葉)」をくれました。宣教地のために3回「めでたし」を唱えるようにと。トマス神父は、いつも祈ると約束し、支えてくれました。私たちはとても親しい友だちになりました。トマス神父はしばしば宣教地の話をしたので、私は宣教師になることを考えるようになりました。神は私のためにすでに計画を描いておられ、私は神に完全に信頼しました。私は自分の宣教師の召命について頻りに祈りました。養成中、「宣教促進」に積極的にたずさわり、宣教地のために祈るよう兄弟会員に勧めました。私は自分の管区の何人かの宣教師たちと会い、助言を求めました。彼らは、宣教師になってもいい時なのではないかと言ってくれました。そこで私は志願の手紙を出し、実地課程の途中で宣教師として旅立ちました。

イギリス管区に到着した私は、すぐに祝福を感じました。院長はとてもよく支えてくれ、管区長はいつも父親のように話を聞いてくれ、兄弟会員の温かさや愛を感じました。こういったことすべては環境に溶け込む助けになり、ゆだねられたミッションを果たすために自信を与えてくれました。宣教師が直面するすべての挑戦・困難は、学び成長するために神がくださった機会です。宣教師として使命を実現するには、神への愛に燃えていることが不可欠です。物事を考察するだけでは不十分で、祈る必要があります。私は宣教師と言えるでしょう。問題はない、ただ学ぶことのできる機会が与えられていると。この管区の宣教師として私の最大の喜びは、若者たちが生き生きと元気で、とても前向きで開かれていること、サレジオ会員と共に働く精神を持っていることです。今度の総会が求めているように、私たちは人を温かく迎え、愛し、若者のもたらす献身を喜んで受けとめる者にならなければなりません。

この管区の宣教師として私が落ち着いた穏やかな心でいる秘訣は何でしょう？ 寝る前に唱えるあの3回の「めでたし」です。私たちの行うことは神のミッション、我らが母のミッションであると、知っているからです。神と母マリアは、宣教師になることを望むすべての人を導き世話されているに違いありません。私はいつもマリアにより頼み、いつも共にいてくださるのを体験しています。マリアはどのような状況も決してあきらめません。マリアは私たちの母であり、ご自分に願う子どもたちにとって良いことであれば、決して断られません。宣教師として自分をささげたいと願うすべての人への私の勧め、祈りはこれです。「サレジオの家に入る者は皆、我らが母によってそこへ案内された」ということを忘れないでください。

バンガロール出身、英国の宣教師 マーティン・ポール



## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

神の僕マティルド・サレム(1904 - 1961)。シリア、アレッポのマティルド・サレムは夫に先立たれた後、大きな愛をもって自らのすべてをあますところなく隣人にささげた。暮らしている町の貧しい若者がマティルドの家族となった。その大きな首都に貧しい子どもたちのための施設を設立し、サレジオ会にゆだねた。遺言によって全財産をさまざまな慈善事業に寄付し、この言葉が真実となった：「今は自分のものでなくなった家で、私は死を迎えます。」

## 移民、難民のために

神がすべての人を貧困、人身取引・売買、無関心から守ってくださいますように。

サレジオ会は世界の五大陸で、人々の移住という状況の中、若者のために働いています。この若者たちのため、若者の家族のため、また温かく迎え、共に歩み、人々の向上と、人々が社会に溶け込むために奉仕し、福音宣教のために働く皆のために祈りましょう。



サレジオ会の宣教の意向

